



幸せな贈り物

ペルソナ

Persona



芸能人の後ろに隠された悲しみ

芸能人のペルソナ チャン・クウギョン、チャン・ジャヨン、アン・ジェファン、キム・グァンソク、ユニ、ヒデ、岡田有希子、マリリン・モンロー、エルビス・プレスリー、ルーシー・ゴードン、アレキサンダー・マックイーン、キム・ダウル、イ・ウンジュ、チョン・ダビン、チェ・ジンシル、そして、チェ・ジョンまで、この人々はうつ病を病んで、ひきつづき死を選択、ウェルテル効果の論議を起こし、ファンが惜しんだ芸能人たちです。彼らはなぜ死を選んだのでしょうか。

最近、俳優のパク・ジンヒ氏は、ヨンセ大学行政大学院修士論文「演技者のストレスとゆううつ、および自殺を考えることに関する研究(2009年)」を通じて、正面から芸能人のうつ病問題を扱って注目を集めています。昨年5月31日から6月13日まで、月の平均所得1000万ウォン以上の主演級俳優から、100万ウォン未満の助演および端役の演技者など260人の演技者に直接会って行った深層インタビュー方式で作成されたこの論文では、男性演技者より女性がうつ病が深刻(女性43.8%、男性35.7%)自殺の危険があるうつ病が10人中1人の割合に達すると明らかにしました。演技者の中38.9%がうつ病を抱えていて、40%が自殺を考えてみたという問題も提起されました。回答者の中で自殺に対する考えを実際に行動に移したいかという質問には、約30%が「そうだ」と答えて、「自殺に対する具体的な計画をたててみたことがある」と答えたのは43.5%であり、「実際に実行するため薬を集めたり、物品を買うなど準備行動

をしたことがある」という場合が20.8%でした。大多数の芸能人は、未来に対する不安と、生計維持のためのストレスを持っていて、健康相談をする比率が21.9%にもなり、老後対策相談が40.8%にもなると明らかにしました。また、実際に答えた対象者の中で、総所得が3000万ウォン以上の者は16.8%だったのに比べて、500万ウォン以下は28.0%で、収入所得の両極化が深刻で、60%は今現在、演技ができずにいて、過度なストレスで胃腸病を抱えている演技者が12.6%、アルコール中毒も4.1%にもなると明らかにされました。

自分の人生のアイデンティティーをなくしたまま、仮面をかぶった人格で生きていかなければならない演技者のペルソナ(persona)。ペルソナは、本来ギリシャの古代劇で俳優がかぶった仮面を称する心理学的用語で、大衆文化の多様なコードを通して、自分の姿を失って、仮面をかぶったまま生きていかなければならない演技者の姿を代弁してくれています。

幸せでなければならぬ人間に、なぜこのような隠された不幸が続くのでしょうか。

人間の幸せ、そのかくされた真実 本来の人間は神様のかたちとして造られた霊的な存在です。神様と交わりながら、全地を征服して治める祝福された存在として創造されました(創世記1:27-28)。魚が水の中で、鳥は空中で、木は土の中に根をおろして生きなければならぬように、人間は神様とともに生きてこそ、真の幸せを味わうようになります。これが神様の創造原理です。

ところが、人間はサタン(悪魔)の誘惑で神様との約束を破る罪を犯して、罪の結果で、神様を離れるようになりました(ローマ人への手紙3:23、創世記3:1-6)。

神様を離れた人間は、サタン(悪魔)の奴隷になってしまいました(ヨハネの福音書8:44)。その結果、人間にはのろいと災いと苦しみと死が入ってきて、運命と運勢に縛られるようになりました(創世記3:16-20)。ア

ダムとエバが罪を犯した以後に、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、私たちの霊は、神様を知らない死んだ霊になりました。これが私たちの人間の根本問題です(創世記 3:1-6、ローマ人への手紙 3:23)。結局、神様を離れた人間は、6つの問題で苦しんで生きようになったのです。

最初に、自分も知らない間に悪魔の支配を受けながら生きようになりました。ですから、幸せなはずがありません。**二つ目**、人生を生きていくほど不安と恐れが訪ねてきます。それで、偶像崇拜をしたり、お祓いをしたり、お守りに頼って、車におふだを貼ったり、お守りをぶら下げてたりもします。**三つ目**、心のむなしさは、より一層、激しくなって、結局、目に見えない心の病気になって、激しい悪夢や金縛りになり、不眠症、幻聴や幻覚に苦しめられて、極度の不安からうつ病、そううつ病になり、日常生活まで正しくできない人がますます多くなっています。**四つ目**、自然に肉体の健康も崩れるようになって、あらゆる病気に苦しめられて、人間関係も崩れるようになります。**五つ目**、結局、人間は死後、地獄という永遠な苦しみと刑罰の中に入るしかありません。**六つ目**、私が持っていた不幸と霊的な問題と偶像崇拜ののろいが、おどろくことに子どもにすべて伝えられて、不幸の相続が続くようになります。こういう不幸の苦しみを解決しようと、人々は宗教、善行、哲学、科学などを通して努力してはみるのですが、この問題を解決することはできません。

人間の幸せ、その回復の道 それで、神様は人間の問題を解決して下さるために、人間を救う計画をたてられました。その方法は、神様が人間となってこの世に来られることでした(ヨハネの福音書 1:14、ローマ人への手紙 5:8)。その方がまさに「イエス・キリスト」です(マタイの福音書 1:21)。イエスは「救い主」(名前)、キリストは「油を注がれた者」(職分)という意味です。イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間を神様に会うようにさせる唯一の道である、まことの預言者です(ヨハネの福音書 14:6)。イエス・キリストは、十字架で私たちの罪のを身代わりに受けて死なれたことによって、私たちのすべての罪を解決して、のろいと災いから解放させてくださった、まことの祭司です(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。イエス・キリストは、聖書の預言どおり、十字架で死んで3日後に復活され、今も人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に打ちこわされた、まことの王です(ヨハネの手紙第一 3:8)。それで、聖書はイエス様を「キリスト」だと言っています。もう一度、言うなら、人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決された方だということです。

それなら、どのように私がすべての問題から解放されて救われることができるのでしょうか。

イエス様をキリストと信じて、私の心に受け入れれば良いのです(ローマ人への手紙 10:9-10、ヨハネの福音書 1:12)。この時、神様が永遠にともおられるようになる神様の子どもの身分を得るようになり、本来、人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。今、この時間に、あなたはイエス・キリストを受け入れれば、神様の子どもになって、すべての問題から解放されるようになります(ヨハネの黙示録 3:20、ヨハネの福音書 5:24)。真実な心で下の祈りをそのまますれば良いのです。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決して下さったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きようとしてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。(ヨハネの福音書 5:24)



この時代の**囊中之錐** (のうちゅうのきり)

春秋戦国時代がほとんど終わろうとしていた秦の国の昭王の時期、秦の国が趙の国の首都、邯鄲（カンタン）を包囲しました。それで、趙の国の朝廷では宰相平原君に楚の国に行つて合従（軍事同盟）を求め、対処しろという命令をくださったので、平原君は彼の家には数千人の食客の中の文武を兼備した20人を選んで共に行くことにしました。ところで、19人は選んだのですが、残りの1人を選ぶことができなくて悩んでいたときに、毛遂という人が自分を入れてくれと言いました。そのときに、平原君が答えて、「賢明で高尚な人とは、まるで錐が袋の中にあるように、すぐにその先があらわれるようになっている方です。ところで、先生はここにおられて3年もなつたが、人々がほめる言葉を聞いたことはありません。これは先生には才能がないという証拠ではないでしょうか」とすると、毛遂は平然と答えました。「私は今日、はじめて、袋の中に入ることを求めたのです。もし早くから私を袋の中に入れていたら、たぶん、先だけでなく中まであらわれたでしょう」結局、毛遂の知略によって、趙の国との合従は成立して、国家の危機を抜け出すようになりました。

袋の中に入っている針は、出てくるようになっています。

重職者が福音にあって、霊的な力と実力を備えて、自分の地域と一つの国を胸に抱いているならば、必ず神様の働きは出てくるようになっています。そのような人物になるべきです。もし、だめならば、どのようにすべきでしょうか。しなければ良いのです。そのような堂々とした人物にならなければなりません。ヨセフのように、神の国を味わいながら、一つの地域と一つの国を抱いて契約の中で待てば良いのです。だまされないように願います。一度も非真理が真理に勝ったことはありません。一度も偽りは真実に勝ったことはありません。歴史上、暗やみが光に勝ったことはありません。何の心配もせずに、現場で十字架の血の契約を握って、霊的な力を備えて、神の国を味わいながら待てば良いのです。神様は重職者を世界の基の置かれる前から、この時代の囊中之錐として呼ばれ、一つの地域と一つの国を生かすように祝福を備えておられました。2.7%の塩分のゆえに、海水は腐ることがないように、みなさん一人ゆえに、地域と国が腐ることなく生かされるのです。

さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた。主が彼に幻の中で、「アナニヤよ」と言われたので、「主よ。ここにおります」と答えた。(使徒9:10)

神様の子ども**の五つの確信**

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ8:15-16、Iヨハネ5:10-13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ14:26-27、箴言3:5-6)
- 4 **赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(IIヨハネ1:9、ローマ3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ8:31-37、Iヨハネ5:4)

神様の子ども**の毎日の祈り**

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を權威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

OK?
OK!



イラスト_ユン・スルギ

ひょっとしたら、この手紙を受け取られる方の中には、いやな気持ちになる方がおられるかもしれない。ぜったいに必要なメッセージなので、誠意をつくしてお伝えしようと気をつけているのだが、ときどき、本意とは違って負担に思わせてしまう場合がある。しかし、本当はどのような思いなのかを知ってくださるなら、十分に理解していただけている。

外国に行って福音を伝える機会がある。外国はその国ごとに文化と宗教と慣習があって、特に言葉が違うので、福音を簡単に伝えることは難しい。しかし、本当にイエスの他には救いはなくて、キリストの他にはすべての問題の解決者はないという事実の前で、私たちは良心的に福音を伝えるしかない。

南太平洋の一つの島で分かる英語は0.Kしかない一人の伝道者が、どのように貴重なたましいを救われるかを見た。

若い男女の深刻な対話を聞くようになった伝道者は、無鉄砲にも、英語で書かれた伝道トラクトを先に女性に差し出した。韓国語で話しながら、指は英語の伝道トラクトを指しながら「人間は問題の中にいるようになりました。0.K?」「精神的な問題でうつ病になります。0.K?」普通、このように話せば、相手方で無礼だと感じる人は、拒否の意志を見せたり、その場を避ける。ところが、その人は「0.K?」と尋ねる問いに、はじめには無反応だったが、ず

と話すしかなく、無反応は半分の肯定だと思って続けてメッセージをしたのだ。結局、メッセージを自分でみな見るようになって、意味を見つけた彼女は、福音を受けるようになったのだ。おどろくことには、彼女が

そばにいる他の男性にもメッセージを伝えてくれという表示をしたのだ。

伝道者は当然だというように「霊的問題のために偶像、宗教問題きます。0.K?」「救いはただイエス・キリストだけです。0.K?」とても無知で、礼儀がない伝道であることを認めるが、彼らは二人ともイエスをキリストとして受け入れた。知ってみたら、彼らは夫婦だったが、男のほうはヒンズー教で、奥さんはイスラム教だった。宗教の戒律上、二人は結婚できないのに、なぜか彼らは結婚して、それで深刻な状況になっていたのに、空から降りた(飛行機に乗ってきた)伝道者に会うことによって、人生と未来の答えを見つけたのだ。福音の自由を信仰によって瞬間的に得るようになった彼らは、明るくなった姿で未来を肯定した。

それでも気になった。どのように言葉も通じない外国人に0.Kだけで対話をできたのかどうかに対してだ。しかし、事実、現場はだれにでも恐れの対象だ。全く顔を知らない人に、以前には知らなかった不特定の人に、礼儀正しくない状況で、良いメッセージだが、意思を伝達するということは、伝える人や聞く人みんなに負担であることだけは事実だ。しかし、伝道者は話す。もしこの場で私が知っている福音を話さなければ、一生に一度も福音を聞くことができないこともあるという切迫感が、恐れに勝って、福音を語るようになるということだ。なぜなら、福音はその状況の良くないことを甘受しても、伝えなければならない意味があるためだ。分からない言葉で伝えられたが、見ることができる文章で伝えられたメッセージを通して「0.K?」は、福音だったので「0.K!」になった。ひょっとしてあなたにも「0.K?」

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

